

山口情報芸術センター [YCAM] 展覧会

池田亮司 新作インスタレーション展 "supersymmetry"  
スーパーシンメトリー

\* 世界初公開

2014年4月2日(水) — 6月1日(日) 10:00—19:00 入場無料

山口情報芸術センター [YCAM] スタジオA、B

## 池田亮司によるYCAM委嘱作品第3弾。

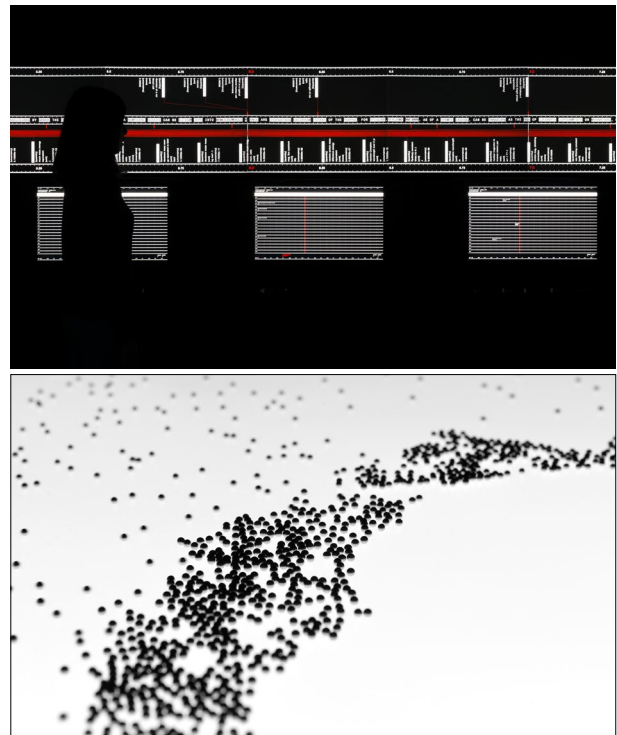
## 量子論を美学的な視点から解釈した新たなインスタレーションを世界初公開。

山口情報芸術センター [YCAM] では、日本を代表する電子音楽作曲家でアーティストの池田亮司による新作インスタレーション "supersymmetry" (スーパーシンメトリー) をル・リュウ・ユニック・ナント芸術センター (フランス) との共同制作のもと、世界で初めて発表します。

池田はYCAMにおいて、2004年にオーディオ・ビジュアル作品「C<sup>4</sup> (シー・フォー・アイ)」を制作／発表した後、2008年に初の大規模個展として「datamatics (データマティックス)」を開催しており、その都度、世界的な評価を高めてきました。

6年ぶりにYCAMでの滞在制作を経て発表される今回の新作インスタレーションは、2012年初演のパフォーマンス作品をベースに、完全な新作として構想したもので、量子力学や量子情報理論を美学的な視点から解釈し、池田の得意とするデータ観測表現の限界に迫ろうとする野心的な作品です。

大規模なスケールで展開する、高速度で緻密な音響と映像は、鑑賞者を圧倒し、事物の成り立ちや世界像について深い洞察をもたらすことでしょう。この機会にぜひご体験ください。



池田亮司 "supersymmetry" (2014年/YCAM委嘱作品)

## ■ 特設ウェブサイト

<http://supersymmetry.ycam.jp>

新作の写真や映像のほか、池田亮司の貴重なインタビューがご覧いただけます。

この機会に、取材や記事掲載にご協力いただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

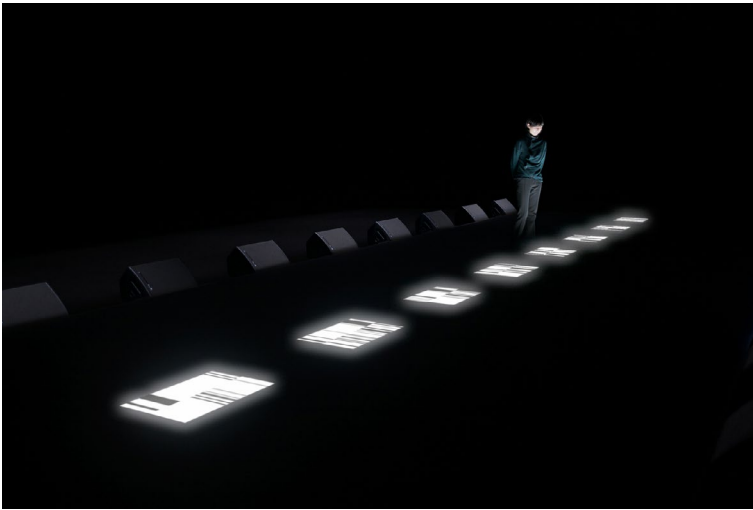
お問い合わせ 山口情報芸術センター [YCAM]

TEL: 083-901-2222 FAX: 083-901-2216 メールアドレス: [press@ycam.jp](mailto:press@ycam.jp)

〒753-0075 山口県山口市中国町7-7 <http://www.ycam.jp>

取材に関するお問い合わせ、プレス用写真等ご入用の方は上記までご連絡ください。

## 日本を代表する電子音楽作曲家／アーティスト、池田亮司



池田亮司「test pattern [n°1]」（2008年／YCAM委嘱作品）

本展アーティストの池田亮司は、先端的な電子音と、光学的かつ物質的な造形を統合しながら、微視的で稠密なオーディオ・ビジュアル作品から、公共空間での大規模インスタレーションまで、さまざまなスケールや形態の作品を90年代のデビュー以降、多数発表しています。

YCAMでは、2004年にオーディオ・ビジュアル作品「C<sup>4</sup>」を、2008年に展覧会「datamatics」を、それぞれ滞在制作を経て発表。そのたびに、音と光の物理的特性を美学／数学の両面から追求する独特のアプローチを発展させ、いずれの作品も国内外の芸術祭／音楽祭で発表を重ねるなど、高い評価を得ています。

池田の作品群には、連続的に見える事物であっても微視的な要素により離散的に構築されているのではないか、という視点が一貫して存在しており、これまでにYCAMで発表した「C<sup>4</sup>」、「datamatics」シリーズ、「test pattern」シリーズでは、「データ」という概念に着目し、世界を解体／再構築しようとする様々な試みがなされています。特に「test pattern」シリーズにおいては、データの最小単位であるバイナリー（=0か1）を想起させる、シンプルでソリッドな表現へと辿り着きました。

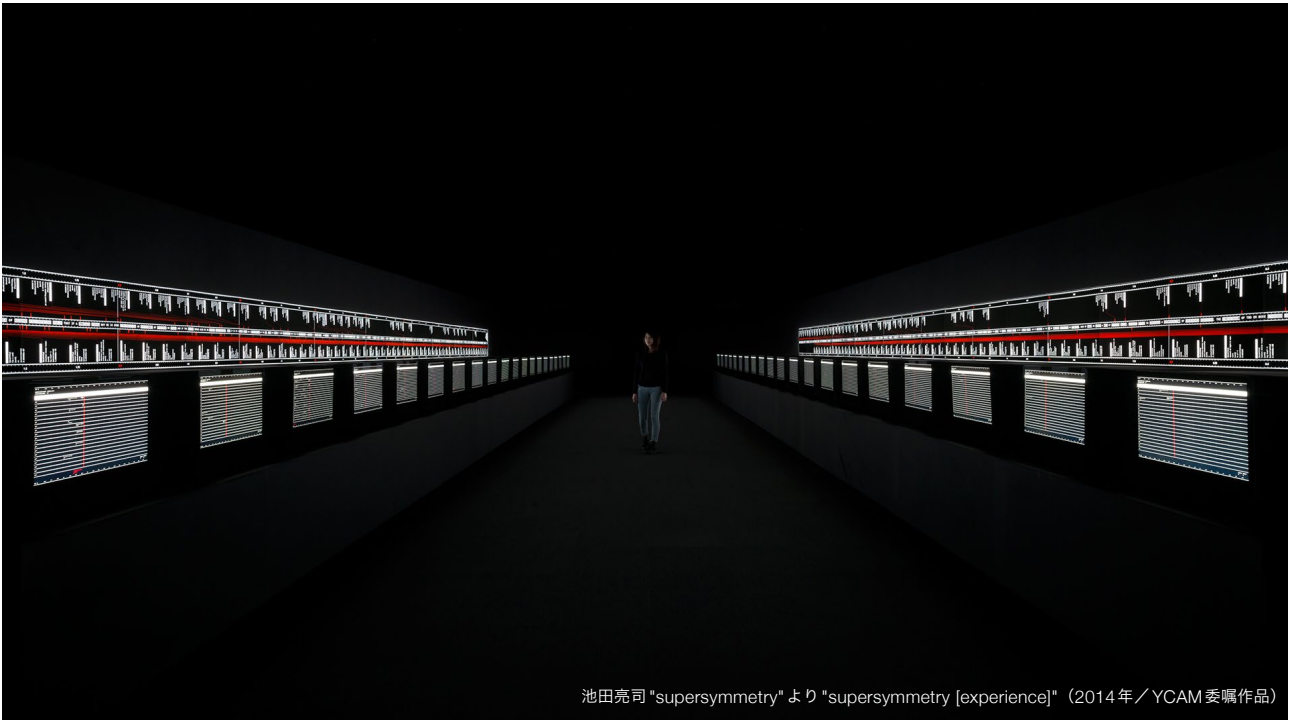
6年ぶりにYCAMでの制作／発表する機会となる今回は、ほとんど極点に到達したとも言えるこうした一種の〈バイナリーな思考法〉を超越すべく、新たな方法論が模索、提示されます。そのためのキーワードが「量子情報理論」であり、「素粒子物理学」です。

### ■ 池田亮司（いけだ・りょうじ）

1966年岐阜生まれ、パリ在住。電子音楽作曲家／アーティスト。音そのもの持つ本質的な特性と、映像の本質的な特性としての光を、数学的精度と、美学の両面で追求している。音響メディアと視覚メディアの領域を横断して活動する数少ないアーティストの1人として、池田の活動は世界中で注目を集めており、音響、映像、物質、物理現象、そして数学的概念の精緻な構成を用いて、鑑賞者を没入させるライブ・パフォーマンス、インスタレーションを発表している。

映像、彫刻、サウンドや新たなメディアなど様々な形態に落とし込まれた作品を通して、現代社会に広がる不可視のデータを知覚することの可能性を追求する「datamatics」プロジェクト（2006年～）や、テキスト、サウンド、画像、映像などあらゆる種類のデータをバーコード・パターンと2進法へと変換し、デジタル機器を用いたパフォーマンスの限界と、人間の知覚の閾値の関係性を検証する「test pattern」プロジェクト（2008年～）など、音楽活動とあわせて、長期プロジェクトに取り組んでいる。また、彫刻的素材として強力な白色光を用いた大規模なインスタレーションにより、公共空間を変容させる「spectra」シリーズは、アムステルダム、パリ、名古屋などで公開されている。カールステン・ニコライとのコラボレーション・プロジェクト「cyclo.」（2000年～）では、ライブ・パフォーマンスやCD、書籍を通して、ソフトウェアとコンピュータによってプログラムされた音楽の、エラー構造と繰り返されるループを、リアルタイムでサウンドを映像化するオーディオ・ビジュアル・モジュールを用いて考察している。

## 連続と離散—バイナリーコードを超えて展開される量子論的世界への眼差し



池田亮司 "supersymmetry" より "supersymmetry [experience]" (2014年 / YCAM 委嘱作品)

今回、YCAMでの長期の滞在制作を経て、世界で初めて発表されるインスタレーション "supersymmetry" は、2012年に池田が発表したパフォーマンス作品 "superposition" ををインスタレーション向けに大幅に改訂／拡張した作品です。

その一方で、池田が2014年から2015年にかけて、ジュネーブ（スイス）にある世界最大の素粒子物理学の研究施設CERN（欧州原子核研究機構）でおこなう滞在研究の成果を反映するためのプラットフォームでもあります。

本作のタイトルは、現在の素粒子物理学では未解明の物質やエネルギーである「ダークマター」や「ダークエネルギー」を解明するための鍵を握ると言われる「超対称性」のことを指しており、背景にはこの「超対称性」を始めとする素粒子物理学における「観測」という問題系からのインスパイアが存在します。

本作は、"experiment" と "experience" の2つの作品から構成されており、両者の関係性は、量子力学や素粒子物理学における実験と観測、さらには表象と数学的モデルの関係性に対応しています。

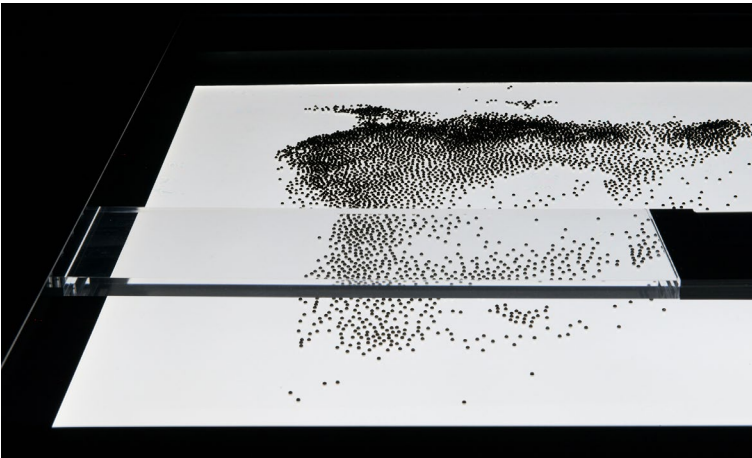
なお、本作はYCAMでの発表の後、フランスのル・リュ・ユニーク・ナント芸術センターでの発表が予定されています。

### ■ 超対称性

現代の素粒子物理学では、宇宙に存在する物質やエネルギーのうち、およそ4%しか解明できていません。残りを占める未解明の「ダークマター」や「ダークエネルギー」の謎を解き明かすべく多くの科学者が研究を重ねていますが、その有力候補が現在発見できている素粒子と「スピン」と呼ばれるパラメータが異なるだけの架空の粒子「超対称性粒子」です。超対称性とは、超対称性粒子と解明済みの素粒子との関係性のことを指しています。

CERNが持つ実験装置「LHC（大型ハドロン衝突型加速器）」が開発された目的の1つには、超対称性粒子の発見があり、池田がCERNに滞在する間にもこれに関する実験が実施される予定です。

## 実験と観測—supersymmetryを形成する2つのインスタレーション



池田亮司 "supersymmetry" より "supersymmetry [experiment]" (2014年/YCAM委嘱作品)

### ■ supersymmetry

2014年/YCAM委嘱作品

コンセプト、コンポジション：池田亮司

[コラボレーター]

プログラミング、コンピュータ・グラフィック

ス：平川紀道、徳山知永、大西義人

機構／光学／装置設計：平川紀道

コンピュータ・システム設計：徳山知永

エレクトロニクス設計：大西義人

技術管理：平川紀道、徳山知永

### supersymmetry [experiment]

スタジオ内には強烈な白色光を発する3台のライトボックスが配置されています。それら上には極小の球体オブジェが敷き詰められており、ライトボックスのわずかな傾きの変化により、様々な振る舞いを見せます。ライトボックスの明滅にあぶり出される球体のシルエットは、時に〈球の集合〉として、また時に〈個別の球〉として、球体同士の多様な関係性を描き出します。また、ライトボックスの表面には赤色のレーザーが走査しており、これにより得られた球の挙動を会場内の音響、そしてライトボックスの上部に取り付けられた液晶ディスプレイの映像へと反映しています。

### supersymmetry [experience]

スタジオ内には、2つの幅20m×高さ0.7mのスクリーンが向かい合わせに、さらにその内側に同じく40台ものディスプレイが同じく向かい合わせに配置されています。外側のスクリーンにはなんらかの物理現象を想起させる映像が表示され、内側のディスプレイではそれぞれの動きを高速で解析するような描写が見られます。全ての映像はひとつの画面内においても、会場内の全てを統合した映像としても精密に構成されており、音響とともに高度な一体感を生み出します。

このインスタレーションは、今後、映像／音響コンテンツが随時アップデートされる予定で、池田の新たな科学的、数学的関心を反映していくものとして捉えられています。

## 開催概要

## 池田亮司 "supersymmetry"

2014年4月2日(水)―6月1日(日) 火曜休館(祝日の場合は翌日)

10:00―19:00

入場無料

山口情報芸術センター [YCAM] スタジオA、B

主催：公益財団法人山口市文化振興財団

後援：山口市、山口市教育委員会

平成26年度文化庁 地域発・文化芸術創造発信イニシアチブ

助成：在日フランス大使館/アンスティチュ・フランセ日本、アンスティチュ・フランセ/ナント市協定、

公益財団法人朝日新聞文化財団

協力：ギャラリー小柳

機材協力：ミックスウェーブ株式会社、株式会社ベルパーク

共同開発：YCAM InterLab

共同制作：ル・リュ・ユニック・ナント芸術センター、ナント市、フランス文化省

企画制作：山口情報芸術センター [YCAM]、Ryoji Ikeda Studio

## 関連プログラム

## ギャラリーツアー

日時：4月12日(土)、4月26日(土)、5月10日(土)、5月24日(土)

各回14時から(60分程度)

参加無料

## ライブパフォーマンス "supercodex [live set]" (終了)

日時：4月19日(土) 20:00開演(30分前会場)

会場：山口情報芸術センター [YCAM] ホワイエ

出演：池田亮司

## 巡回情報

日時：2014年6月27日(金)～9月21日(日)

会場：ル・リュ・ユニック・ナント芸術センター (フランス)

フランス・ナント市全域ををあげて開催される「VOYAGE À NANTES」の主要プログラムとして、「supersymmetry」が公開されます。

## 次回企画展

## 「MEDIA/ART KITCHEN (メディア・アート・キッチン) YAMAGUCHI:

## 地域に潜るアジア―参加するオープンラボラトリー―

地域社会に根差した実践的な活動を展開している日本と東南アジアの若手アーティストの取り組みを紹介する参加型の展覧会。会期中には音楽家の大友良英によるコンサートのほか、参加アーティストによるワークショップやシンポジウムも開催。

会期：7月5日(土)―9月28日(日)

会場：山口情報芸術センター [YCAM] ホワイエ、2階ギャラリーほか

参加アーティスト/機関：HONF Foundation (インドネシア)、ヴェンザ・クリスト (インドネシア)、パニ・ハイカル (シンガポール)、オペラシ・キャッサバ (マレーシア)、田村友一郎 (日本)、YCAM地域開発ラボ (日本)